

第2号議案 事業報告案

1. 概観

こども基本法施行以降、子どもの権利への関心が高まり、2025年度も自治体、教育委員会、学童支援員、民生委員、NPOなどから引き続き、子どもの権利啓発や研修のために講師派遣依頼を多く受けました。講演や研修では、おとなが子ども観を変えて子どもを1人の人として接して子どもの声を聴くことの重要性を訴えてきました。

それらの講演や研修において、2022年にシーライツが制作した『世界の子どもの権利かるた』を活用したワークショップを開催しましたが、シーライツ以外にもかるたを活用してくださっている団体が増えています。

一方で、かるたを使ってもいいのか、どのように使えばいいのかという問い合わせもいただき、かるたワークショップのガイドブックも制作しました。かるたの札の1つに「逃げたっていい 逃げることも大切」というものがありますが、このメッセージを私たちシーライツとしてはどんな思いで伝えたいのか、どのような課題が含まれているかということについて議論し、かるたの利用者にも意見を聞きながら制作しました。

また、2024年度から理事・事務局長によりオンラインで実施している「子どもの権利連続講座」は、子どもの権利に関する国内外の動向や実践について学ぶ機会を提供するとともに、シーライツに蓄積されてきた専門性やネットワークを広く発信する場ともなっています。2025年度は、5講座開催し、多様な知見と実践経験を有する人材が活動に参画していることを内外にアピールすることができました。

新たな挑戦として、学校教育が子どもの権利に基づいたものとなるよう、学習指導要領に子どもの権利の視点を入れてもらえるよう、関連の活動をされている方々となつながら、文科省にはたらきかけ、提言書づくりを始めました。

また、ヘイトスピーチや差別の被害に遭うようになっている海外ルーツの子どもの権利保障を求める活動を始めました。そして、子どもの権利講座における理事による報告など、難民など海外ルーツの子どもの置かれている状況についての啓発活動をおこない、広げよう！子どもの権利条約キャンペーンの活動にも広がりました。

組織面では、議論を進めてきたセーフガーディングの行動規範を策定し、子ども若者が困ったりしたときに相談できる仕組みもつくりました。2人の外部専門員（法律と心理の専門家）に子ども若者が相談できる窓口を担っていただけるようになりました。

昨年度の大きな出来事として、認定NPO法人格の更新審査がありましたが、皆さまのおかげで更新が認められました。この間、アドバイザーの河合将生氏やセイエンというNPO組織強化の団体の事務局長関口氏から頂いた組織強化のアドバイスに基づき組織整備を進めてきました。

そして8月から佐藤信一氏を事務局長に迎え、様々なガバナンス改革を進めました。1つは、審議決定すべき事項を明らかにし、理事ミーティングで議論をしっかりと行い、その上で理事会で納得のいくかたちで決定するという仕組みができたほか、それぞれの理事や監事とのコミュニケーションを密にとっています。また、各種規程も整備しました。

2. 開発途上地域の子どもの権利状況に関する調査・研究・発信事業及び開発教育事業

シーライツ主催イベント「子どもの権利連続講座2025」にて、鈴木真代理事からはコロンビアにおける子どもの人権とビジネスをテーマに、子どもの性的搾取の現状や企業によるグッドプラクティスの報告などがなされた。また、武田勝彦理事からは、CSAM(児童性的虐待コンテンツ)をテーマに、世界の現状・課題・取り組みについての報告がなされた。

3. 国連子どもの権利条約の普及事業、及び子どもの権利促進事業

(1) 「世界の子どもの権利かるた」の普及・活用

2025年12月6・7日に開催された「子どもの権利条約フォーラム2025in鹿児島」に、ユースメンバー2名と理事1名、事務局2名で参加。二日目の分科会では、「かるたであそんで、子どもの権利を楽しく学ぼう！」というタイトルでユースメンバーが中心となって「世界の子どもの権利かるた」ワークショップを実施。当日は、大人・子ども合わせて9名の参加があった。また、子どもの人権連助成事業「第26回「子どもの権利条約具体化のための実践」」により、各地でかるたを活用してもらうためのガイドブックを、理事、ユースメンバー、事務局で意見交換をしながら作成した。作成に当たっては、上記ワークショップの他に、子ども劇場、学童クラブの子どもたち、Leaf College Projectなど関係団体の協力を得ながら、多様な子どもの声を聴く機会をもった。

その他も、講師派遣により、「世界の子どもの権利かるた」を活用してワークショップを実施した。●印の講師は、代表理事甲斐田が務めた。

実施日	内容	主催
●4/20	子どもの権利保障から始まるみんなが行きたくなる学校とは かるたワークショップ 子どもの権利について知ろう	みんなの未来をつくる会(岐阜県大垣市)
●7/5	子どもの権利ってなあに? ~子どもの権利かるたで遊んで知ろう~	東京都 小金井市公民館
●9/7	「子どもの権利条約を知ろう」かるたを使ってのワークショップ	千葉県 柏市光ヶ丘地区青少年健全育成推進連絡協議会
11/15	かるたであそんだ後、気になった札、友達に伝えたい札などをテーブルごとに共有し、その後、自分のもやもやな気持ちを言葉にした権利かるたを作成	国際子ども権利センター(きたく子ども劇場ごん2サークル)
12/7	かるたであそんだ後、気になった札、友達に伝えたい札などをテーブルごとに共有し、その後、自分のもやもやな気持ちを言葉にした権利かるたを作成	国際子ども権利センター(子どもの権利条約フォーラム2025in鹿児島)
●1/25	「こどもと学ぶこどもの権利」について、カルタを使ったワークショップと講演を希望	栃木県 NPO法人そらいろのたね
●2/12	子どもの権利について「世界の子どものかるた」で遊びながら学びを深める	東京都三鷹市西多世代交流センター(職員対象)
3/5	かるたであそんだ後、気になった札、友達に伝えたい札などをテーブルごとに共有し、その後、自分のもやもやな気持ちを言葉にした権利かるたを作成	国際子ども権利センター(西口学童クラブ)

「世界の子ども権利かるた」を活用して多くの人に子どもの権利を広めていただくために、かるたを使って開催するワークショップのガイドブックを制作した。

ガイドブックはこちらからご覧いただけます。



(2) 動画「子どもの権利について」の普及

「世界の子ども権利かるた」のワークショップや出版記念イベントで上映し、子どもの権利の理解をさらに深めるために活用した。

※参加者アンケート(一部)※

- ・わかりやすく、見るのにあきなかった(10歳)
- ・いろいろな子どもの権利について説明されていてわかりやすかった(19歳)
- ・子どもの権利について、知らなかったことを知れた。身近なところから、自分でも取り組めることがあることを知れた。(おとな)
- ・すこやかな子どもが育てば、すこやかな社会になっていくよねと改めて感じました(おとな)
- ・高校生・大学生のみなんが作った楽しくてポップな雰囲気がとてもよかったです。イラストもかわいかったです。(おとな)

(3) 出版本『毎日つかえる子どもの権利』を活用した子どもの権利の普及

2025年8月27日に、神保町にあるブックハウスカフェにて、出版記念イベントを開催した。運営側には、シーライツユースメンバーの他、世界の動画「子どもの権利について」でイラスト提供をしてくださったナムーラさんも協力いただいた。当日は、書籍の読み聞かせの他、世界の子ども権利かるたワークショップや、動画「子どもの権利について知ろう」の上映も行った。大人・子ども合わせて28名の参加があった。

※参加者アンケート(一部)※

- ・かるたも楽しく、わかりやすかった。知識を深めることができよかった。(10歳)
- ・かるたなどで実際に活動しながら、実践的に学べたこと(19歳)
- ・動画とかるたがわかりやすかったです。子どもたちだけでなく、大人も理解しやすかったです。(おとな)
- ・先生の経験を交えたお話しがとてもわかりやすく、よかったです。また、お話しがききたいです。本を読みます。ありがとうございました。(おとな)
- ・若い高校生や大学生とつくっているイベントだったのが、すごくよかった。(おとな)
- ・子どもたちと一緒に、子どもの話を聞いたのがとても良かった。自分の周りでも、子どもと対話ができるような活動を考えていきたい。(おとな)

(4) 子どもの権利連続講座の実施

2024年度に継続して、理事や事務局長による「子どもの権利連続講座」を以下の内容で5回開催した。延べ87名の申込みがあり、23名からアンケート回答を得た。終了後は、2024年度と合わせてアーカイブ配信を行った。

実施日	テーマ	講師
10/4	日本・コロンビアにおける子どもの権利とビジネス課題～子どもの権利保障における企業の社会的責任とは何か？	鈴木真代

10/18	学校外の居場所・学び場で育つ子どもたち～子ども主体に挑む実践のあり方～	佐藤信一 (事務局長)
11/1	子どもの声に応える～子どもが自死を選ばない社会に向けて	甲斐田万智子
11/8	こども基本法以降の自治体の動き—大阪府富田林市の事例から	岡島克樹
11/22	CSAM(児童性的虐待コンテンツ)をなくす～生成AIによる子どもの権利への脅威～	武田勝彦

※参加者アンケート(一部)※

(第1回参加者)

・開発途上国でも国の文化的歴史によっては、日本より人権意識が進んでいるのだと知れた。日本は、我慢が美德だったり、本音と建前の文化があったりして発展し物質的に豊かになってきたから、人権意識が土壌として育ちにくいんだなあと改めて思った。

(第2回参加者)

・実際にフリースクールとして活動する中での子どもたちの変化を聞いた事。またフリースクール側からのアプローチとそれに対する学校の関わり方についても、実際の状況が聞いて参考になりました。

(第3回参加者)

・ある程度は知っている内容ではあったのですが、いま起きている状況について、あらためて整理して考えることができたので良かったです。また、参加者の方の思いや考え、実体験等のお話もあり、子どもも保護者も安心して生きていける世の中になっていくために、自分にできることを考えながらお聴きしていました。

(第4回参加者)

・子どもの権利条例設置に向けて、学びを始めたところです。今日は、その具体的な視点、方法を学ぶことができ、とても勉強になりました。

(第5回参加者)

・近年の生成AIの発展に対応する国際的な取組をあまり知らなかったので学びになった。

※第3回を除き、聞き手は甲斐田万智子代表理事が務めた。

(5)講師派遣

2025年度も自治体や教育委員会、市民団体など様々な機関よりお声がけいただき、子どもの権利、こどもにやさしいまちづくりなどのテーマで講演や研修を実施した。講師は、いずれも代表理事甲斐田が務めた。

NO	実施日	タイトルと対象者	主催者と開催方法
1	4/25	「学校における子どもの権利について ～学校経営の視点から～」(全県担当職員)	埼玉県教育局県立学校部人権教育課(オンデマンド動画)
2	5/14	「子どもの権利の現在地—国際規範を日々の暮らしに活かすには」(国際協力論概説A)(学生)	上智大学総合グローバル学部(対面)

3	6/3	「子どもたちが笑顔でいるための優しい社会」(保護者)	学校法人野毛山学園 野毛山幼稚園 ひつじ会(保護者の会)(対面)
4	6/15	「こどもの人権について学んでみよう」(保育園看護師)	いわて保育看護職の森(対面)
5	6/18～ 7/18	子どもの権利条約を含めた「学校教育の中で大切にしたい子どもの権利」(教員)	名古屋市教育センター 教職員研修・採用課(新)(オンデマンド)
6	7/11	「子どもの目線で子どもの話を聴ける大人に～児童虐待防止の観点から～」(児童虐待にかかわる区職員 NPO関係者)	横浜市緑区こども家庭支援課(対面)
7	7/13	「子どもの権利条約第1条「子どもの定義」・子ども観・こども大綱について学ぶ」(子どもへのソーシャルワークにかかわる人)	SWと子どもの権利条約勉強会(オンライン)
8	7/19	「子どもの権利はなぜ大切?子どもの声を聴くということ」(一般市民)	広島県ユニセフ協会(対面)
9	9/3.9	「子どもの人権を大切にしたい保育とは」(保育士)	白百合保育園 一般財団法人 保健福祉振興財団(対面)
10	9/5	「子どもの人権と子ども基本法～子どもたちが抱える人権問題～」(学校教員)	岩手県立総合教育センター(対面)
11	9/8	「子どもの権利が守られる学校に～こども基本法から考える」(小・中学校人権教育研修 大阪府学校教員)	大阪府教育センター 教育企画部 人権教育研究室(オンライン)
12	10/3	「子どもの権利条約を意識した育成を学ぶ」(【実務研修 児童対応向上研修】学童支援員)	江戸川区教育委員会事務局 教育推進課 すくすくスクール(対面)
13	11/6	「子どもの声を大切にすると子どもの権利に基づく子育て」(『私らしく子育てを楽しむ』子・孫育て講座)(一般市民)	三鷹市西多世代交流センター(対面)
14	11/14	「子どもの声を聴きながら子どもの権利を守る」(民生委員児童委員)	府中市民生委員児童委員協議会(対面)
15	11/15	「子どもの声に耳を傾けることから始まる子どもの権利保障～子どもが声をあげやすい社会にするには」(一般市民)	鳥取県琴浦町人権教育課(対面)
16	11/25	「子どもの声に応えるために大人ができること～平和な世界へのつながり～」(一般市民)	オンラインコミュニティPark(モンテッソーリ)(オンライン)
17	11/29	「子どもの権利についての理解を深める、広める」(こどもモニター)	青森県むつ市 こどもみらい部 子育て支援課(対面)
18	12/03	「子どもの権利を尊重した子どもとの関わり方とは」(区職員、児童虐待防止に取り組むNPO)	横浜市都筑区こども家庭支援課 要保護児童対策地域協議会(対面)
19	12/7	「子どもの権利とは?日々の生活で子どもの権利をまもり、子どもを幸せにする」(一般市民)	福岡県古賀市人権尊重委員会(対面)
20	1/18	「子どもは問題解決の主人公 本を読み、権利を知ることによってエンパワーされる」(日本子どもの本研究会会員と一般市民)	一般社団法人 日本子どもの本研究会(対面)

21	1/20	「一人ひとりの子どもの人権を大切にするかかわり方とは～国連子どもの権利条約の基本的理念～」(社会教育委員、教育委員会職員、公民館職員、隣保館職員、社会教育関係団体(少年・青年・女性団体等)、民生委員、地域役員、行政関係者、こども園・幼稚園・小・中・高・特別支援学校の教職員、PTA会員、大学・高等専門学校・専修・各種学校等の教職員 800名)	香川県教育委員会事務局 人権・同和教育課(対面)
22	1/23	『初等部創立70周年記念 キャッチしよう！我が子の「あのね」～子どもの権利～」(保護者)	東京都調布市桐朋小学校PTA(調布市)(対面)
23	2/23	「こども基本法で定められた子どもの意見表明権～子どもの声を聴くわたしたちの責任」(子ども食堂などで子どもに携わる人)	社会福祉法人倉敷市社会福祉協議会(対面)
24	3/6	「子ども対応における子どもの人権の理解、捉え方」(学童保育指導委員)	株式会社パソナフォスター(オンライン)
25	3/15	人権ディフェンダープログラム「子どもの貧困を権利の視点から学ぶ」(若者)	公益財団法人東京都人権啓発センター(対面)

(6) 子どもの権利等に関する執筆、インタビュー記事

主に、こども基本法や子どもの権利について、甲斐田代表理事が雑誌等への執筆活動を行った。

- ・民生委員児童委員むけ会報誌「民生委員・児童委員のひろば」に半年にわたって子どもの権利について連載。
5月号 第1回「子どもの人権と民生委員・児童委員」
6月号 第2回「参加する権利」
7月号 第3回「育つ権利」
8月号 第4回「守られる権利」
9月号 第5回「生きる権利」
10月号 第6回「子どもも同じ1人の人間という意識」
- ・日本テレビニュース(インタビュー記事) こどもの日特集 「子どもの権利をまもるとは、子どもの声を聴くこと 生活の中で子どもに「選ぶ」自由がある文化を」
<https://news.yahoo.co.jp/articles/9227575be6e5ad5c5efeabf521cf3acae4950224>
- ・イーウェル会報誌「Welに暮らそう」(2025年夏号)「親子で学ぶ子どもの権利とSDGs」
- ・広島県ユニセフ協会会報誌「ゆにひろ」 「ユニセフとの出会いと子どもの権利 ～子どものエンパワメントと学校改革」
- ・日本子どもの本研究会「子どもの本棚」(2025年12月号)「子どもが権利をつかい、対話できる社会をめざして」
- ・日本キリスト教婦人矯風会「k-peace」(2026年1月号)「こども基本法で示された「子どもは権利の主体」という考え方を広め、子どもへの暴力をなくそう！」

・全国社会福祉協議会『保育と保健』第32巻第1号(2026年3月15日発行)「子どもアドボカシー 子どもの権利を守るために子どもの声を代弁する」

・子どもの権利条約ネットワーク「子どもの権利条約ニュースレターNo.163号」(2026年3月15日発行)「こども基本法下の学習指導要領の改訂に向けて～子どもの権利に基づく教育の提言書」

(7)学校における子どもの権利保障に向けて学習指導要領改訂へのはたらきかけ

新学習指導要領の改訂にあたり、子どもの権利に基づく学校教育となるように学習指導要領改訂へ提言していくための学習会を2回開催した。

・10月26日 講師・武田緑さん(学校DE&Iコンサルタント・Demo代表)
甲斐田代表理事、寺中副代表理事、岡島理事、佐藤事務局長が参加。

・11月25日は、講師・小見まいこさん(NPO法人みらいずworks代表理事・教育課程部会 総則・評価特別部会主査代理)。甲斐田代表理事、岡島理事、佐藤事務局長、小澤事務局員が参加。

26年1月21日に、文科省と非公式に面談し、学習指導要領に子どもの権利を含めるよう要請。調整協力いただいた末富芳さん(日本大学教授)の他、シーライツからは、甲斐田代表理事、寺中副代表理事、武田理事、佐藤事務局長、小澤事務局員が参加。

(8)ユースグループ Youth for Rights

後期の9月から毎週木曜日に立教大学にてランチミーティングを開催し、「世界の子どもの権利かるた」の札について意見交換をしたり、かるたワークショップの計画づくり・運営・振り返りや、「豊島子どもWAKUW AKUネットワーク」が運営する子ども食堂でのボランティア活動について報告、情報共有する機会を持った。

(9)事務所に中学生受け入れ

・四谷中学校の生徒 5 名が事務所を訪問。小澤事務局員がNPOと企業の違いや児童労働などについて説明。また「世界の子どもの権利かるた」を使って子どもの権利や自己肯定感などについて語り合った。

(10)子どもの権利関連研究会参加

・12月21日 子どもの権利条約総合研究所内・子ども参加研究会 学校外の多様な学びと子どもの意見表明・参加権保障の展望ー子ども支援者の役割・課題を考えるーに佐藤事務局長が「フリースクール活動と子どもの意見表明・参加の支援をめぐる」をテーマに報告した。

・2026年3月7日 東洋大学人間科学総合研究所プロジェクト「地域での支援力を生かす子ども相談支援の開発支援」事業「子どもの権利の評価検証をどう進めるか～国内外の取り組みから考える」にて、甲斐田代表理事が「世界の潮流と日本の子どもの権利の具体化の進展」というテーマについて報告した。

5. 国際・国内団体とのネットワーク

(1)参加ネットワーク団体

- ・広げよう！子どもの権利条約キャンペーン実行委員会
- ・(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)の正会員
- ・児童労働ネットワークの団体正会員
- ・NGO非戦ネット
- ・SDGs市民社会ネットワーク情報会員
- ・子どもに対する暴力撤廃日本フォーラム(GPeVAC)
- ・こどもまんなかプラットフォーム(こども家庭庁)
- ・子どもアドボカシー学会団体正会員
- ・教育協力NGOネットワーク(JNNE) (SDG 4 教育キャンペーン)
- ・永山子ども基金への協力

(2)ネットワーキング活動

① 広げよう！子どもの権利条約キャンペーン(以下 キャンペーン)の活動に共同代表・実行委員団体として参加

日付	内容	参加者
4月10日	キャンペーン実行委員会	甲斐田代表理事
4月22日	キャンペーン主催【子どもの権利条約日本批准31周年記念】こども基本法制定から2年、自治体による子どもの権利保障の最前線	甲斐田代表理事登壇
5月22日	子どもの権利ランチセミナー「いじめ問題から考える子どもの権利～元当事者・子どもの声と現在の取り組み～」	甲斐田代表理事(対談)
6月9日	キャンペーン実行委員会	甲斐田代表理事
7月31日	子どもの権利ランチセミナー「学校における子どもの意見表明・参加 ～こども基本法のもとで学校はどう変わるか?～」	甲斐田代表理事(対談)
8月7日	キャンペーン実行委員会	佐藤事務局長
9月16日	子どもの権利ランチセミナー「学校における子どもと先生の自由～市民活動が果たせる役割～」	甲斐田代表理事(対談)
10月2日	キャンペーン実行委員会	甲斐田代表理事
11月11日	キャンペーン主催イベント「子どもの権利をすべての子どもの当たり前」～ニュージーランド子どもコミッショナーに聞く、子どもの権利保障と日本の展望～」	甲斐田代表理事 小澤事務局長
12月22日	キャンペーン実行委員会	甲斐田代表理事
1月14日	キャンペーン実行委員会	甲斐田代表理事
2月6日	キャンペーン実行委員会	甲斐田代表理事
3月12日	キャンペーン実行委員会	甲斐田代表理事 佐藤事務局長 小澤事務局長

3月13日	こども家庭庁ヒアリング「こどもとともに成長する企業構想概要」について意見交換	甲斐田代表理事
3月25日	子どもの権利ランチセミナー「海外ルーツの子どもの今～子どもの権利の視点から考える～」	甲斐田代表理事(鼎談)

②子どもに対する暴力撤廃日本フォーラム

子どもに対する暴力撤廃日本フォーラム(EVAC 日本フォーラム)のメンバーとして様々な活動を行った。政府が2021年に策定した子どもに対する暴力撤廃行動計画の見直しと改訂が行われ、それに対するはたらきかけを行った年であった。

特に、今年度から甲斐田代表理事が子どもに対する暴力撲滅円卓会議の市民社会代表メンバーに就任し、市民団体から意見を聴取するヒアリングに参加したほか、自身もヒアリングを受け、円卓会議で市民の方々の意見を代表として伝えた。

また、5月は子どもに対する暴力担当・国連事務総長特別代表のナジャット・マール・ムジート氏の来日に合わせて実施されたプログラムに参加した。

さらに、日本は子どもに対する暴力撤廃のためのパスファインディング国であり、アジア地域における8カ国の会合が開かれた際に子どもの声を伝えた。

日付	内容	参加者
4/23,5/16,7/7,7/21,9/16,12/12,1/13	EVAC日本フォーラム会議	甲斐田代表理事
5月20日	神奈川県伊勢崎市にある子どもの権利擁護センターかながわ(CAC)*をナジャット氏と視察	甲斐田代表理事
5月21日	シンポジウム 子どもに対する暴力撤廃に向けて「いまこそ行動をおこそう！」ナジャット氏基調講演	甲斐田代表理事(登壇)(子どもへの暴力を含めた子どもの権利教育と学校のあり方と子どもの自死との因果関係の調査の必要性について発言)
5月22日	子どもへの暴力に取り組む市民団体と意見交換会にナジャット氏と参加	甲斐田代表理事
10月15日	こども家庭庁による「子どもに対する暴力撲滅行動計画」改定案のヒアリング(オンライン)	甲斐田代表理事
10月26日	こども家庭庁 子どもに対する暴力と行動計画についてのこども意見ひろば見学	甲斐田代表理事
10月30日	東南アジアのパスファインディング国8カ国の子どもに対する暴力について子どもコンサルテーション(オンライン意見交換会)	高校生の岡崎駿さん、高木萌伽さん、横井りかさん、西川音さん、甲斐田代表理事
11月13日	こどもに対する暴力撲滅パスファインディング国アジア太平洋地域会合(オンライン)	高校生の岡崎駿さん、甲斐田代表理事
1月15日	こども家庭庁主催の子どもに対する暴力撲滅円卓会議	甲斐田代表理事

*性被害や虐待を受けた子どもへの系統的全身診察や司法面接を行っている数少ない機関。

③ こどもまんなか社会実現プラットフォーム

3月7日に開催された総会とイベント「”こどもまんなか”作戦会議！～出会いから協働へ。チーム活動デザインワークショップ」に佐藤事務局長とユースメンバーの高木萌伽が参加。

④自治体シンポジウム

・2026年2月 埼玉県三芳町で開催された「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウム「地方自治から広げる子どもの権利」に甲斐田代表理事、岡島理事、小澤事務局員、ユースメンバーの高木が参加。

6. 組織運営

(1) 理事会の開催

理事会を全10回開催(3月理事会を除いて、全てオンラインにて開催)。

日付	議題
5月16日	第113回理事会 議題:事務局長募集要項案について、業務委託について、人権方針と相談を受けたあとの流れ、総会(6月21日)に向けて
6月7日	第114回理事会 議題:事務局長募集要項案について、総会(6月21日)に向けて
6月21日	第115回理事会 議題:代表理事、副代表理事の互選、業務委託について
8月1日	第116回理事会 議題:代表理事、副代表理事の選定について
9月8日	第117回理事会 議題:第1号議案 第13期(2019年度)修正決算案、第2号議案 第14期(2020年度)修正決算案、第3号議案 第15期(2021年度)～第18期(2024年度)修正決算案、第4号議案 第1～3号議案の臨時総会開催に関する事項
10月19日	第118回理事会 議題:経理規程改定案について、事務所移転について
12月20日	第119回理事会 議題:「子ども・若者のセーフガーディング(CYSG)」の人員配置方針について
1月31日	第120回理事会 議題:「子どもと若者のセーフガーディング」の通報・相談窓口外部専門委員について
2月28日	第121回理事会 議題:「子どもと若者のセーフガーディング」の通報・相談窓口外部専門委員について
3月29日	第122回理事会 議題:ファンドレイジング計画について

(2) 認定NPO法人格更新に向けての準備と臨時総会開催

NPO法人セイエンの関口代表理事に伴走いただきながら、田崎税理士とともに認定更新の準備を進めた。8月13日には事務所において、東京都の認定NPO法人担当職員による実地調査を受けた。その際、過年度(第13期～第18期)の決算について一部修正を要する事項が判明したため、9月13日に臨時総会を開催した。総会で承認された修正後の計算書類を提出し、10月16日付で認定の有効期間の更新を受けた。更新手続きにあたっては、社会人ボランティアお二人の協力を得た。

(3) ガバナンス強化を踏まえた経営改革・アクションプラン

① 子ども・若者のセーフガーディング

・9月25日に鈴木洋一氏(NPO法人Wake Up Japan代表理事)・Michał Pietrzak氏(オックスフォード大学レイドロー奨学生(SDGラボ))をお招きして、『セーフガーディングはなぜ大切か』をシーライツ事務所で開催し、甲斐田代表理事、ユースメンバー5名、佐藤事務局長が参加した。

・武田理事、シーライツユースメンバーと共に、子ども・若者のセーフガーディング指針及び行動規範に基づき、フローチャートを作成した。また、作成過程において、NPO法人mia forza代表理事の門間 尚子氏にもヒアリングの機会をいただいた。

・フローチャートに基づいて、2026年度4月より、外部専門委員として、安藤由紀氏(心理カウンセラー、人権ファシリテーター、絵本作家)と佐藤真依子氏(弁護士)に依頼することとなった。

② 意思決定過程の見直し、ガバナンスの強化

・理事会の他、適宜理事ミーティングを開催し、決定の場(理事会)と議論の場(理事ミーティング)と機能を明確化した。

・理事会/理事ミーティング前には、代表理事・副代表理事・事務局で議題の整理をすると共に、年間を通じて河合将生氏の伴走支援を受け、理事会/理事ミーティングの前には、佐藤事務局長と河合氏とのミーティングを開催した。

・原則隔月で、監事と事務局で会議を持ち、事業の進捗状況を共有すると共に、意見交換をする場を設けた。

・定款・規程・ガイドラインなどの整備: 経理規程を改定し、理事と事務局との予算執行における権限・意思決定プロセスを明確化した。また、子ども・若者のセーフガーディングのフローチャートの作成、それに基づく外部専門員の設置を進めた。

③ 体制整備(人材確保・育成)

・8月より、佐藤信一を事務局長として採用開始した。

④ 南雲理事が2月にカンボジアを訪問した際に元業務委託団体に対して、返金をはたらきかけた。

・社会人インターンの活動

原則月1回、オンラインミーティングを開催し、学生インターンと共に、活動状況の共有や意見交換を行った。また、クラウドデータの整理や講師派遣リストの整理作業を担当した。

・社会人ボランティア数名に支援者管理や会報発送の作業を担っていただいた。

(4) 事務所移転

・12月1日付で、事務所を同建物内6階へ移転した。

(5) 資金調達(ファンドレイジング)

① 助成金

子どもの人権連より子どもの権利普及活動に10万円の助成を受け、各地でかるたを活用してもらうためのガイドブックを、理事、ユースメンバー、事務局で意見交換をしながら作成した。作成に当たっては、上記ワークショップの他に、子ども劇場、学童クラブの子どもたち、Leaf College Projectなど関係団体の協力を得ながら、多様な子どもの声を聴く機会をもった。

② 講師派遣事業

2024年度同様、子どもの権利をテーマにした研修ニーズが高く、講師派遣事業は法人財政に大きく寄与した。

③シーライツ「子どもの権利冬募金キャンペーン」の実施

2026年1月から3月にかけて、募金を呼びかけるキャンペーンをSNSを中心に実施した。

④シーライツチャリティイベント 交流&活動報告会の開催

2026年2月28日に、ブックハウスカフェ(神保町)を会場にして開催した。会の企画・運営には、ユースメンバーやボランティアの方が多く参加し、それぞれの思いを語ってくださった。当日も、シーライツの活動報告の他、ユースメンバーの想いの発表や、活動報告もあり、好評だった。子ども、大人併せて41名の参加があった。寄付金は67000円であった。

⑤シーライツ中期計画に基づく、ファンドレイジング計画(2026-2028)の策定

寺中副代表理事(兼経理担当理事)と佐藤事務局長でファンドレイジング計画の案を作成し、理事ミーティングでの討議を経て、2026年3月理事会において、その方針が決議された。それに基づき、2026年度事業計画及び予算を策定することとなった。

(5)支援者

①会員

2025年度会員総数

内訳

正会員合計 (前年比)	一般正会員	子ども正会員	
43 (13名増)	40	3	
賛助会員合計 (前年比)	一般賛助会員	子ども賛助会員	団体賛助会員
22 (5名減)	22	0	0

(6)広報

- ・ダイバージェンス株式会社に委託し、新ホームページを作成した。
- ・2024年度の年次報告書とニュースレター104号を発行し、支援者に送付した。